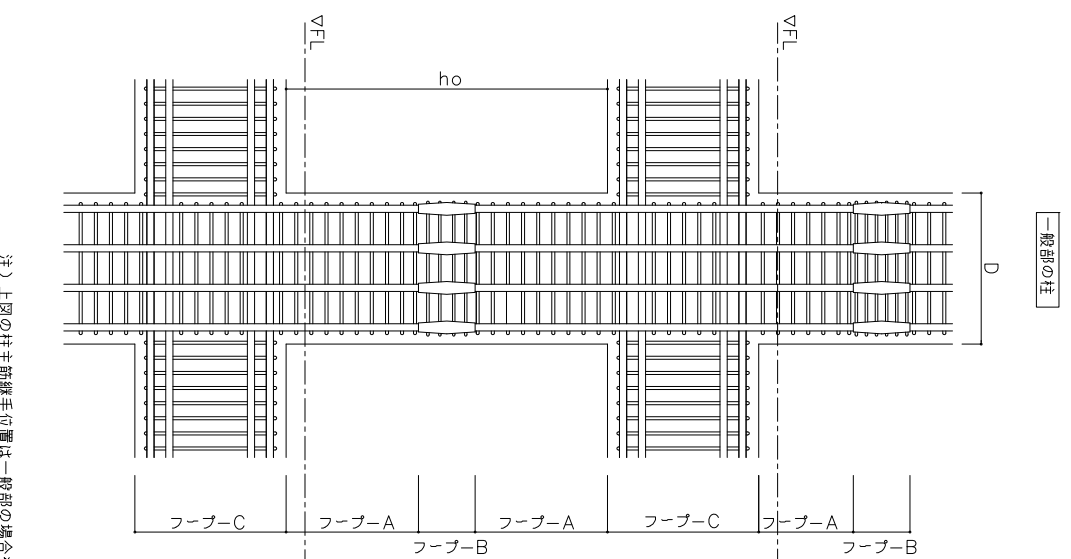
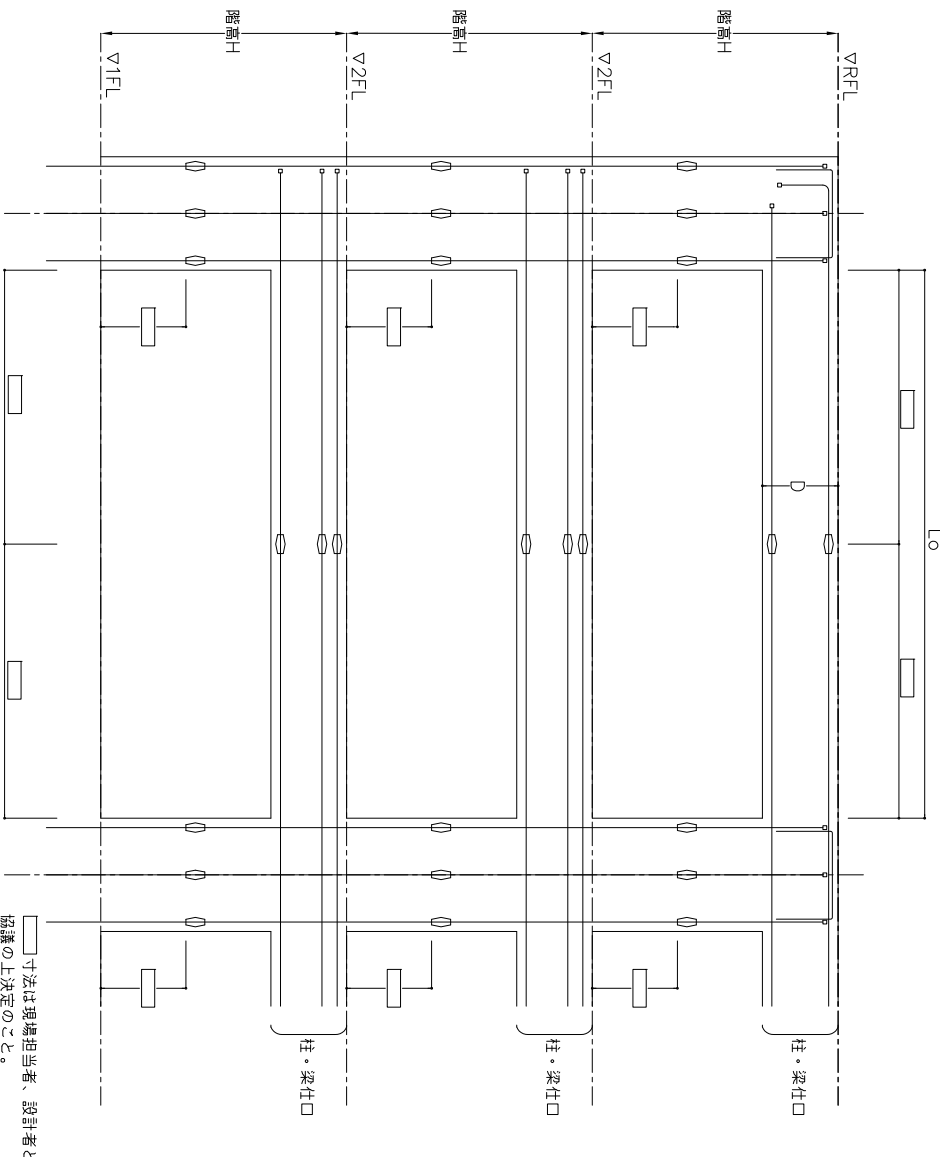


柱主筋継手位置

- 注意
1. 印は、柱主筋の継手位置を示す。(ネジカプラーの場合)
  2. 印は、梁主筋の継手位置を示す。(ネジカプラーの場合)
  3. 柱の継手は、各層または1層おきに設ける。
  4. 梁の継手は、各スパンまたは1スパンおきに設ける。
- ※柱主筋補筋定着は、大梁外端部及び柱主筋定着部を原則とし、日本建築協会(BBCC)、建築構造技術支援機構(SABTEC)の性能評価を受けたものを使用する。この時、詳細内容については確認を行うこと。



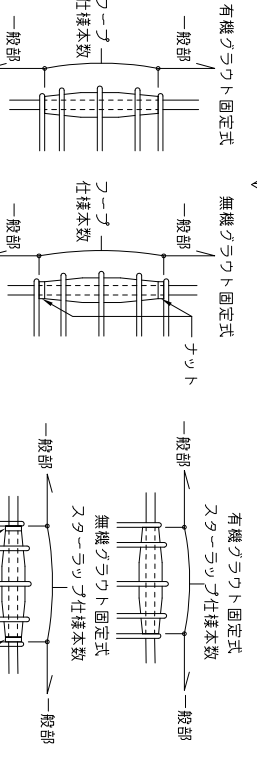
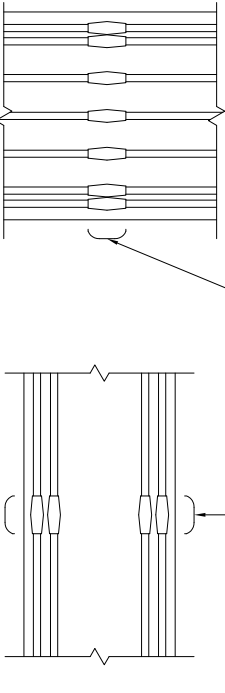
注) 上の柱主筋継手位置は一般部の場合を示す。これ以外については現場担当者、設計者と協議の上決定のこと。

柱・梁主筋継手要領 (ネジカプラーの場合)

JFE条鋼・ネジカプラーはA級継手性能とし、その継手部のせん断補強筋要領を下記に示す。継手金物は、機械式(ネジ式)継手とする。

この間のフープは、設計フープ径のラツカインスクリップとする。(中子筋も同様とする) 但し、設計かぶり厚が確保される場合は一般部と同径・同ピッチとす。

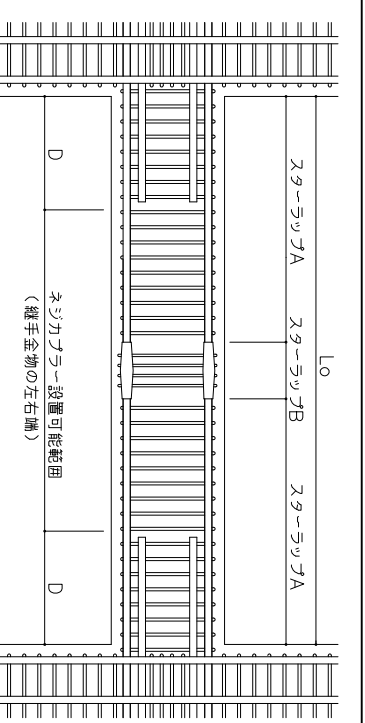
この間のスターラップは、設計スターラップ径のラツカインスクリップとする。(中子筋も同様とする) 但し、設計かぶり厚が確保される場合は一般部と同径・同ピッチとす。



<注意> (1) 共通事項の表1・表2は、一般部の第一フープ・第二スターラップをネジカプラーに接して配置した場合のネジカプラー上のフープおよびスターラップの本数を示す。一般部の第一フープおよび第一スターラップをネジカプラーから離して配置する場合は、別途検討のこと。

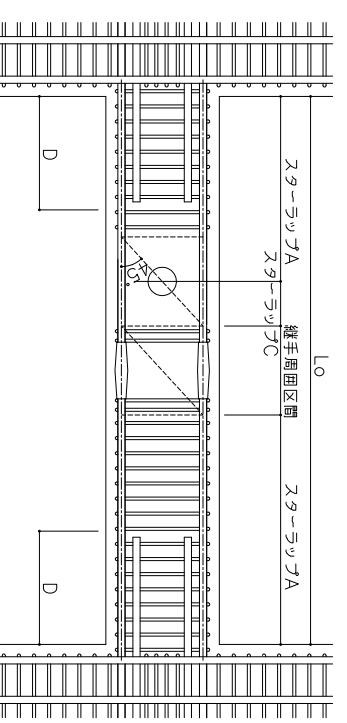
(2) TRスクリップ工法における一般部のフープ・スターラップの配置は検定計算により定める。

梁主筋継手範囲とスターラップ形状



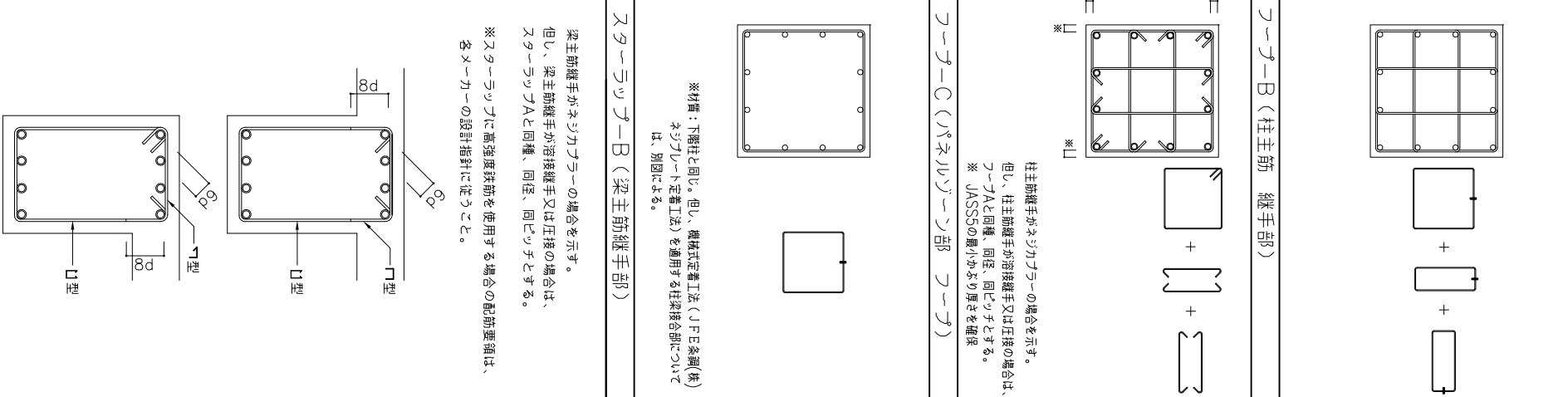
一般部スターラップ (スターラップA) を D13@150とした場合の継手部スターラップ (スターラップB) の筋節は表1または表2とする。

ネジカプラー梁TRスクリップ工法を適用することにより、継手金物上のスターラップを配置しないことができる。その場合は、梁貫通孔及びカットオフ筋と継手金物との位置関係を含む工法設計指針によること。



梁主筋継手がネジカプラーの場合を示す。但し、梁主筋継手が溶接継手又は圧接の場合は、スターラップAと同種、同径、同ピッチとする。

※スターラップに高強度鉄筋を使用する場合の筋節要領は、各メーカーの設計指針に従うこと。



共通事項 (特記なき限り下記による)

柱主筋の継手は、機械式継手(ネジカプラー)を使用する。\* 柱主筋は可とできる。\* 梁主筋は可とできる。

【内】は、フープ・スターラップ筋を一般部: S16・D16、継手部: S13・D13とした場合

表1. 機械式継手(ネジカプラー)上のフープ・スターラップ(無機グラウト固定式)

呼び名	長さ	フープ本数(※2)	一般部(フープA)	継手部(フープB)	フープピッチ
(※1)					
D19	110	20x2	2	2	
D22	125	20x2	2	2	
D25	140	20x2	2	2	
D29	165	20x2	2	2	
D32	180	30x2	3	3	φ100
D35	205	30x2	3	3	
D38	215	30x2	3	3	
D41	221	30x2	3	3	

※1) 梁径カプラーの場合は大きい方の鉄筋の呼び名(D19-D22であればD22)とする。

※2) 本数N=(A/a) x (Lc+2ln+d-1) / l

※3) A: 補強筋断面積 a: カプラー部補強筋断面積 d: 補強筋外径 l: ピッチ(mm)

図: 無機グラウト固定式(フープ)

表2. 機械式継手(ネジカプラー)上のフープ・スターラップ(有機グラウト固定式)

呼び名	長さ	フープ本数(※3)	一般部(フープA)	継手部(フープB)	フープピッチ
(※1)					
D19	110	1	1	1	
D22	125	1	1	1	
D25	140	1	1	1	
D29	165	2	2	2	φ100
D32	180	2	2	2	
D35	205	2	2	2	
D38	215	2	2	2	
D41	221	2	2	2	

※3) 本数N=(A/a) x (Lc+d-1) / l

※4) A: 補強筋断面積 a: カプラー部補強筋断面積 d: 補強筋外径 l: ピッチ(mm)

図: 有機グラウト固定式(フープ)

表3. 継手部(スターラップB)

呼び名	長さ	スターラップ本数(※2)	一般部(スターラップA)	継手部(スターラップB)	スターラップピッチ
(※1)					
D19	110	20x2	1	1	
D22	125	20x2	1	1	
D25	140	20x2	1	1	
D29	165	20x2	1	1	
D32	180	30x2	2	2	φ150
D35	205	30x2	2	2	
D38	215	30x2	2	2	
D41	221	30x2	2	2	

図: 無機グラウト固定式(スターラップ)

表4. 継手部(スターラップA)

呼び名	長さ	スターラップ本数(※2)	一般部(スターラップA)	継手部(スターラップA)	スターラップピッチ
(※1)					
D19	110	20x2	1	1	
D22	125	20x2	1	1	
D25	140	20x2	1	1	
D29	165	20x2	1	1	
D32	180	30x2	2	2	φ150
D35	205	30x2	2	2	
D38	215	30x2	2	2	
D41	221	30x2	2	2	

図: 有機グラウト固定式(スターラップ)

表5. 継手部(スターラップC)

呼び名	長さ	スターラップ本数(※3)	一般部(スターラップA)	継手部(スターラップC)	スターラップピッチ
(※1)					
D19	110	1	1	1	
D22	125	1	1	1	
D25	140	1	1	1	
D29	165	2	2	2	φ100
D32	180	2	2	2	
D35	205	2	2	2	
D38	215	2	2	2	
D41	221	2	2	2	

図: 有機グラウト固定式(フープ)

表6. 継手部(スターラップ)

呼び名	長さ	スターラップ本数(※3)	一般部(スターラップA)	継手部(スターラップ)	スターラップピッチ
(※1)					
D19	110	1	1	1	
D22	125	1	1	1	
D25	140	1	1	1	
D29	165	2	2	2	φ100
D32	180	2	2	2	
D35	205	2	2	2	
D38	215	2	2	2	
D41	221	2	2	2	

図: 有機グラウト固定式(スターラップ)